

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業・運営理念に加え新たに「ビジョン・ミッション・バリュー」を作成しました。理念をより深めるため法人の管理者が集まり、今まで以上に活きた言葉となるように熟考し、利用者様の幸せの追及に活かせるように勉強会や勤務後の時間を活用しチームでの共有を図っています。	月1回のミーティングの中で運営理念を唱和し、全職員で共有し理念の持つ意味を理解して同じ方向を見て利用者を第一に置いた支援に取り組んでいる。ホーム内に管理者、リーダーによるプロジェクトチームで「想いやり」「感謝」「協力」等7項目のバリューを作成して、3ヶ月に1回開催しているサービス向上会議で話し合いを重ね、理解を深めるとともに職員に徹底を図り、「一歩先の小さな幸せ」を遂行し、利用者の想いに添った支援に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も落ち着きを見せ、お茶のみサロンへの参加を再開しました。回覧板も回していただき地域行事にも参加しています。利用者様と地域の架け橋になるようにまずスタッフが事業所前の公園の掃除を行っています。	開設以来自治会費を納め、地域の一員として開かれ親しまれる施設として活動している。地域の行事については運営推進会議の際に区長さんより案内を頂き、参加する様になっている。毎日の日課として行っている散歩の際には近隣住民や近くの幼稚園児と挨拶を交わしている。また、近くの公園の草取りに職員数名が参加したり、日常的に利用している隣の公園の掃除を週2回行っている。3ヶ月に1回公民館で開かれる「お茶のみサロン」には4～5名の利用者が参加し、地域住民の皆さんとの交流の時を楽しんでいる。合わせて法人内のケアサポートセンターで開かれる「オレンジカフェ」にも参加している。コロナ禍も落ち着き、中学生の職場体験も再開しており、今年は4名の中学生が来訪し、傾聴を中心に食事作りのお手伝い等で利用者と交流した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方々と協力し事業所として緊急時の地域住民の方々の受け入れ、物資の提供など、案として検討しています。また、地域の方々と顔なじみになれるように地域の草取り行事にも参加しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍が収束し、昨年より対面での運営推進会議を再開している。身体拘束や避難訓練、イベント、行事などの活動報告を通じてサービスの現状を知ってもらい、意見をもたせてサービス向上に努めている。	コロナ禍中は書面での開催が続いていたが、昨年5月の新型コロナの5類への移行を受け、昨年6月より対面での運営推進会議が再開された。檀田区区长、檀田区民生委員2名、利用者家族、市高齢者活躍支援課員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が出席して年6回開催している。利用者状況、身体拘束、虐待についての報告、意見交換等を行ってサービスの向上に繋げている。夏祭り、防災訓練等ホームの行事に合わせ運営推進会議を開催し、参加メンバーには見学して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して高齢者活躍支援課、地域包括支援センターの方にも参加してもらいホームでの活動を理解していただいている。それぞれの視点より貴重な意見をいただいている。	市の担当部署と連携を取り、緊急時1名のショートステイの受け入れを行っている。また、事故・ヒヤリハット報告も速やかに行っている。さらに、運営推進会議で市の担当者より地区の状況等を聞き、参考にしていく。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し施設長が対応している。市の介護あんしん相談員は、未だ利用した事が無いが、市に確認し再開されれば、利用したいと思っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ユニット入り口を開錠しています。介護度の高さや関係などとの利用者様にも「拘束」がないように定期的に身体拘束委員会の実施、研修の実施をしています。	定期的に身体拘束適正化委員会、拘束に対する勉強会を行い拘束に対する意識を高めて拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関、各ユニットの入口ドアは開錠され自由に出入りが出来る状況であるが、利用者が外出したい時は、職員が付き添い出来るだけ自由に過ごして頂く様にしている。転倒危惧のある方が数名いるが、家族と相談の上センサーマットを使用して安全確保に繋げている。また、ミーティングの中で事例を挙げて検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニット内で虐待につながるような事例がないか毎月のユニット会議及び虐待防止委員会で確認しており、常にスタッフ同士の注意喚起、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、リーダーは研修、勉強会のなかで学ぶ機会を持ち、制度の必要性を理解しています。また地域包括支援センターとは必要に応じ、情報交換、事例相談等行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームでの生活について、利用料金やいつまで入居できるのか等、ご家族の不安や疑問について丁寧に説明し、ご理解をいただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を気軽に伝えて頂けるよう玄関に意見箱と大きな文字で貼り設置しています。面会時にご要望があればお聞きし、面会が難しいご家族に対しては電話にて利用者様の意見、要望を伺えるようにしています。	玄関に意見箱を置いたり電話や面会時にきめ細かく家族のご意見をお聞きして希望に沿える様取り組んでいる。コロナ蔓延中は面会を制限していたが現在は感染対策を取った上で、2年前に設置した面会室で10分程度2名迄の面会を行っている。今後は、コロナの状況を見ながら居室での面会を再開を計画している。また、ホームでの生活の様子を毎月発行している「太陽通信」で知らせており、家族より好評を頂いている。コロナ前に行っていた家族会も中止の状況が続いているが、今年は敬老会へ家族に参加して頂く予定がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は個別面談での意見の反映、管理者は現場（ミーティング等）を通じ役割分担を行いながら職員からの意見を吸い上げ迅速に現場への反映を行っている。	ユニットミーティングを月に1回行っている。ミーティングでは利用者個々の状況の共有、各種勉強会、意見交換等を行って、業務内容の向上に繋げている。法人として人事考課制度があり、年に1回評価項目に沿って、自己評価を行っている。社長による個人面談が年2回行われ、評価とスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に全職員と面談し職場環境や条件等の整備についてや各自の目標設定、意欲向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において外部研修への参加は減少しましたが新たに「リモート研修」の機会も増え活用している。同じグループ内でも「リモート」を活用し研修の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お茶のみサロンやグループ内での勉強会に参加し同業者との情報交換を行っています。コロナ禍でリモート、オンラインでも必要な情報を共有する場は増えました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントより、ご利用者様の生活や経歴を踏まえ、コミュニケーションをとり他利用者様との橋渡しを行うとともにどんな役割を持っていたか考え、より「まゆみだの家」になれ親しんでいただけるよう努力しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前の相談から申し込み、面談などによりご利用者様の様々な思い、困りごとや不安などを伺い様々なホームの事例や状況なども交え、ご家族様と共に考え受け止め、改善できるように前向きな話し合い、関係性作りに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の意向や利用者様の生活歴、また会話の中から支援方法を見極め早めに職員と情報共有を行いその方に合ったケアに移行できるように努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事やお好きな事、やってみたい事をお聞きしやっていたくことで役割としてやりがいを感じて頂けるよう努めています。人生の先輩として教えていただくことも多く感謝を伝えながら支え合う関係を築けるように努めています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の状況をお伝えし、日ごろから電話やメールで日常の様子や体調変化等連絡しています。また毎月発行する太陽通信にもたくさんの写真を載せ様子が分かるようにし、意見を伺いながらご家族と一緒に利用者様を支えていく関係づくりに努めています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策と制限時間を設けさせていただき、利用者様とご家族様の面会を行っています。ドライブや外出で周辺地域を周りグループホームでの生活とご自身の生活歴がつながっていることを感じていただくようにしています。	友人、親戚の面会があり、歓談の時を楽しんでいる。日々の生活の中、利用者の希望に合わせ近くのドラッグストアまで歩いて買い物に出掛け、好きな物を楽しみながら購入している。また、時折自宅の近くまでドライブに出掛け家の様子も確認されている。美容師が2ヶ月に1回来訪し、カットとカラーを行っている。年末には自分の名前を書く事を目標に年賀状を作成して家族に出している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション、毎月の行事を企画して、利用者様同士が交流を深められるように努めています。利用者様の性格や身体状況に合わせ、スタッフが架け橋となり、生活を共にする仲間のような関係性作りを心掛けています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設、病院等にうつられたご利用者、ご家族様と面会させていただいたり、ご連絡を取らせていただいています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活歴や「思い」を大事にし利用者様に寄り添ったケアの提供に努めています。また「こんなこともお願いしたらお手伝いしていただけた」「こんな訴えが利用者様からあった」など新しいことがあれば業務日誌、ケース記録、ユニット会議などにより職員間で共有できる体制をとっています。	自分の意向を伝える事が難しい方が数名いるが、入所して長い期間が経過しており、元気だった頃を思い出しながら孤立しない様に「レクリエーション」等で他の利用者と同じ生活が出来る様に努めている。食事、飲み物、洋服選び等二者択一の提案も含め本人の希望に沿える様に取り組んでいる。また、日々の生活の中で気付いた事柄については業務日誌、ケース記録に纏めて、情報を共有し、申し送り時に確認し合って、利用者の意向に合わせた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際にご本人やご家族、居宅のケアマネージャー等から情報を集めアセスメントシートを作成し職員間で共有して今までの暮らし方や思いの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り事項やチェック表、会議等による現状の確認、連携病院による心身状況やADL等の情報共有を行い、日常生活においていつもと違う様子や行動があればケース記録、業務日誌に送り、有する力、出来ること、に目を向けてその人らしい生活の支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の想いを第一にしたケアプランを作成し日々利用者様主体となっているかモニタリングを行っています。「生活機能アセスメント」も作成して利用者様とスタッフが協力して課題に取り組み毎月言語聴覚士との振り返りを行いご本人にとってのより良い生活を考案しています。	月1回のミーティングの席上、課題を出し合いモニタリングを行っている。生活機能アセスメントを作成して、協力医とも連携を取り、家族の希望を面会時や電話で伺って、ケアマネージャーと管理者がケアプラン作成している。短期目標を6ヶ月、状態が安定している場合は1年で長期目標を見直している。状態に変化が見られる場合は、随時、見直しを行って利用者個々に合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録等に様々な状況を記入し情報の記録化を進めスタッフで情報共有を行いモニタリング、ケアプランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同グループ内におけるデイサービス、福祉用具、設備の視点から様々な意見をもらいつつ、その時々生まれるニーズに対して柔軟に支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して高齢者活躍支援課、地域包括支援センター、区長、民生委員の方々と意見の交換を行っている。地域の草取りなどの行事の参加、散歩中での挨拶をしたり野菜やお花をいただくなど地域との関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族様の承諾のもと、かかりつけ医との24時間対応、往診協力体制を築き、適切な医療を受けることのできる体制です。受診内容も専用のノートや申し送りに記載することで職員間での情報共有も実施しています。	利用契約時に希望を伺うとともにホームとしての取り組みを説明している。現在は全利用者がホーム協力医の往診を月に2回受けている。また、協力医の看護師が月2回来訪して利用者の健康管理を行うとともに協力医との連携が図られ24時間対応となっている。歯科については協力歯科医師と歯科衛生士が月に2～3回来訪し、口の健康維持にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	365日24時間体制で相談できる環境があり、訪問看護時にはたとえ些細な事でも現場の職員から伝えることができ利用者様からの体調変化や不安に思っていることを相談し適切な処置を受けられる環境になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院等が必要な場面では情報共有をしつかり行い、現状把握、密な連絡を取り合っています。また、退院前には、カンファレンスに参加し、退院時の様子や今後の生活の注意点等確認するなど入退院の連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期には利用者様、ご家族との話し合いの場を設け事業所、医師と今後の方向性や利用者様ご家族の意向を確認しています。会議等で終末期ケアについて情報を共有しチームで統一したケアを実施出来るように努め、利用者様が穏やかに過ごせる環境作りを行っています。	重度化、終末期に対する指針が有り、利用契約時に説明して同意を頂いている。入浴や食事を取る事が難しい状況になり終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの時を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂いて、全職員気持ちを一つにし医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。1年以内に1名の看取りを行った。居室内に好きな音楽を流し、職員は顔を出して声掛けを行い、家族には最期の時を共に過ごして頂いている。また、毎月のミーティングの中で終末期対応について話し合い、心の籠もった看取り支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な非常事態に備えて対応方法、連携方法のマニュアルを整えどう行動するべきか訓練、研修を実施しています。より実践的な訓練として出火元を実施訓練者には伝えずどこで出火しても行動を起こせるような訓練も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、設備点検を年2回ご利用者様と共に実施している。新たに非常災害用電源を設置し非常時に備えている。様々なシーンを想定したり、チェックテストを行いながら防災意識の向上に努めている。	消防署へ届け出の上、年2回防災訓練を実施している。5月には防災会社参加の下、火災を想定した訓練を行った。出火場所を事前には知らせず、訓練直前に出火場所を知らせて利用者を外まで避難誘導する訓練を行った。合わせて消防署への通報訓練、防災機器の点検を行っている。10月には内容を変え水害、地震を想定した防災訓練を予定している。また、「水」、「レトルト食品」、「介護用品」を備蓄しており、「発電機」も備えられている。なお、防災訓練は運営推進会議に合わせ実施されており、会議参加メンバーに見ていただいている。	緊急時に備え職員の意識向上を図る事も含め「緊急連絡網」の確認訓練を定期的に行う事が望ましい。

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライベートな空間を大切にし 訪室時には必ずノックし声掛けを行いプ ライバシーの保護に努めています。 声掛けも利用者様1人ひとりの性格を尊重 し、親しき仲にも礼儀をわきまえた言動であ るよう努めています。	「親しき仲にも礼儀あり」で信頼関係の中で温かみの言 葉使いを心掛けている。また、希望に合わせて入浴時の 同性介助等にも気を配っている。合わせてトイレ介助の 際にはトイレのドアを必ず閉め、大きな声でお誘いしない など、気持ち良く過ごしていただくように努めている。更 に、利用者の前では他の利用者の話はない等プライ バシーに配慮している。また、業務日誌に利用者の固有 名詞を書く場合は「様」の表記をするようにしている。呼 び方は苗字を「さん」付でお呼びし、同じ苗字の方いる場 合は下の名前でお呼びする事もある。入室の際には 「ノック」と「失礼します」の声掛けをするように徹底して いる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者様の思いや希望 を聞きコロナ禍でも混雑しない時時間場所 を選定しドライブや季節のお花を観に出か けたりなど利用者さまのご希望に沿えるよ う対応しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気持ちを一番に考え日々の中 から利用者様がどのように過ごしたいのか 探り実現する為には、どのように支援を行 えば良いか職員で話し合い取り組んでいま す。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	定期的に訪問美容室に来ていただいてカッ トやカラーの希望を伝えて行ってもらって います。また、普段からも朝の整容の確認や ご利用者様に合ったおしゃれを楽しめるよう 努力しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	野菜を切っていたり、味付け、器への 盛り付け等積極的に食事作りに参加して もらっています。また、器の大きさや色に注意し 彩りも良くなるように気を配っています。食後 の食器拭きなども利用者様とスタッフが協力 して片付けをしています。	一部介助の方が若干名いるが、他の利用者は自 力で食事が出来る状況である。包丁を使える方も 多数おり、野菜の下処理、盛りつけ、後片づけま で楽しみながら参加している。配食会社の献立 による食材を用いて、調理は利用者と職員が行っ ている。そうした中、誕生日には利用者の希望を聞 いて「お魚」など好きな物を提供している。夏祭り には「冷やし中華」、正月には「おせち料理」等を楽し んでいる。また、桜の花見等外出の時には「おに ぎり」や「手作り弁当」を作りピクニック気分を楽し んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	ご利用者様の状況により、ご飯の硬さや食 事形態を変えたりと栄養バランスを考えな がらそれぞれに合った形を検討して提供し ています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。利用 者様それぞれに合ったスタッフの介入を行 い口腔内が不衛生にならないように努めて います。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄してもらうことの大切さを職員全体で共有することから始まり、排泄のタイミング、パターンを調べ適切なトイレ誘導のタイミングを知り「脱オムツ」に努めています。	トイレでの排泄に拘った支援に取り組んでおり、自立、全介助が若干名、一部介助が多数の状況である。タブレットの排泄表を参考に職員は個々の状況を把握し、1週間単位のルーティーンを見て職員同士情報を共有して、早めに声掛けをしている。排便については数名の方が排便コントロールをしているが、「お茶」、「お水」、「スポーツドリンク」、「ジュース」、「牛乳」等で1日1200cc以上の水分摂取に取り組んで排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩やリハビリで、できるだけ体を動かす習慣を取り入れたり、1日の合計水分量をチェックしながら出来るだけ薬に頼らない自然な排便が出来るよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯にこだわらず「汗をかいたから」等利用者様の希望や状況に応じて入浴を楽しんでいただけるように努めています。	全利用者何らかの介助が必要な状況である。3方向から介助が出来る広い浴室で週2～3回の入浴を行っている。入浴拒否の方が若干いるが、誘い方の工夫をして入浴していただくように努めている。入浴剤使用に合わせ「ゆず湯」、「リンゴ湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。入浴前には少量の水分補給、入浴後にはスポーツドリンクやお茶等で水分補給を行っている。今後、コロナ感染状況に留意して、温泉の「足湯」に出掛けたいとも思っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が起きないように散歩やレクリエーション、日常の役割にと活発に過ごしていただき生活習慣を整えることから夜間の安眠につながるように取り組んでいます。不安や混乱で眠れない利用者様にも出来る限り寄り添い、安眠出来る環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診、訪看後、薬の変更は病院の指示に従い適切な量と頻度を守って支援できるように業務日誌、処置対応ファイルを利用して各スタッフで共有の徹底をしています。服薬後は様子観察を行い事務長、管理者への適時報告を行い病院と連携しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	壁飾り、編み物、畑仕事、クラシック鑑賞等、利用者様の生活歴からご本人が今できることを提案し、時に協力して生きがいを持つことが出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品や甘味品、衣類等ご本人の好みのものが選べるよう近辺の店舗へ一緒に外出するように努めています。	外出時は自力、車椅子使用が数名、歩行器、杖使用が三分の二弱の状況である。天気の良い日の日課として近くの公園やホームの周りを散歩し、近隣住民の皆さんと交流の時間を過ごしている。また、歩行訓練も兼ねて近くのドラッグストアまで買い物に出掛けている。合わせて季節に合わせたお花見や夕方から夜にイルミネーション見学を兼ねたドライブにも出掛けている。更に、秋に行われる法人の秋祭り「太陽マルシェ」にも参加してキッチンカーや太鼓、吹奏楽等を楽しみ地域の皆さんとの交流も楽しんでいる。	

グループホーム太陽まゆみだの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は会社で行っているが、周辺の店舗へ買い物に出かける時は利用者様に会計をしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の状況に合わせご家族とも連携をとりながら直接電話する機会を作っています。ご本人の持ち物への記名「大人の学校」等、ペンを持っていく機会を作り年賀状では自筆でご家族へのお気持ちを書いていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごしていただけるよう掃除と換気を時間を決めて行っています。大きな日めくりカレンダーを作り毎食前に一緒に日にちを言っていたき、玄関、ホール、洗面所には花を飾り季節に合った作品を飾り季節の移り変わりを感じていただけるよう工夫しています。	玄関を入り、各ユニットの入り口には顔写真入りで職員紹介がされている。両ユニットは可動式ドアで仕切られているが、行事の際には開放され、広いホールに変わるようになっている。天井からは、手作りの飾りが施され、華やかさが感じられる。廊下の壁には毎月行われる行事の写真が掲示されており、活動の様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはゆっくりと過ごせるソファを置き、TVを観たりお茶をのみ談笑できるよう配慮しています。また一人用の椅子も南側に置き暖かい日射しの中おひとりですっきりとくつろぎながら過ごされる環境になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具や思い出のある品などがあれば持参していただくことを伝えてあります。ご家族の写真やご自分で作った作品、またご家族からのプレゼントなどを飾り安心して過ごせる居室になるよう配慮しています。家具の配置も相談し使いやすい位置にセッティングしています。	各居室は、利用者が自由に生活出来るように心配りされている。持ち込み物は自由で、使い慣れた椅子、机、テーブル、テレビ、ステレオ、仏壇等が置かれ、自宅の居室と間違えるような居室もあり、生活感に溢れている。壁には家族の写真や職員の気持ちが籠もった手作りの敬老の日と誕生日のお祝いメッセージカードが飾られおり、好きな人形や花に囲まれ自由な日々を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレがすぐに分かるよう大きな文字で表示し、トイレ、浴室、廊下を安全に歩いていただけるよう手すりをつけ動線上に物がないう整理整頓に努めています。タンスの引き出しは一段毎に何かを入れるところがわかるよう表示し衣類の出し入れをご自分でやっていただけるように工夫しています。		